

9

接着剤除去の基本

接着作業時に、誤って手や衣服などに、接着剤がついてしまうことがあります。ここでは、そのような場合における接着剤の除去法について述べていきます。

接着剤除去の基本

接着剤は、どんな条件下でも、安定した強力な接着強さを発揮するように、研究開発が進められてきたため、容易にははがれません。また、接着剤は被着材の間に隠れてしまうので、仮に接着剤を溶かしたり接着を弱めたりできる溶剤やはく離剤があっても、接着剤層に触れるのは非常に困難です。また、はく離剤を使うとき、被着材自身が溶けたり変形する可能性があります。被着材の変形などの問題を無視すれば、一般的に接着剤の成分が溶剤に溶けることを利用して取りはずせます。

- 酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形(「ボンド 木工用」など)・でんぷん系・ポパール系……湯が最も効果的です。
- ゴム系(「ボンド G10Z」(170mlは「G10」)、「ボンド G17Z」(170mlは「G17」)など)……ラッカーうすめ液で溶けます。専用うすめ液(ボンド Gうすめ液Z)もあります。
- 溶剤系(「ボンド K10」,「ボンド K120」など)……MEKなどで除去できます。「ボンド K10」,「ボンド K17」はアルコール,「ボンド K120」は酢酸エチルを使用します。
- ホットメルト系(ボンド ホットメルト)……加熱しながら除去します。
- シアノアクリレート系(ボンド アロンアルファ)……「ボンド アロンアルファはがし隊」やアセトン、マニキュアの除光液である程度柔らかくしてから除去します。サイズが小さく煮沸に耐える物は1~2時間煮沸します。
- エポキシ樹脂系(「ボンド Eセット」,「ボンド クイックセット」など)……溶剤に溶けないので物理的(機械的)に、はく離の力や衝撃を加えたり、接着層を加熱したり、強制的に燃焼させて取ります。長時間ケトン系(MEKなど)の溶剤に浸漬し、柔軟後削り落とす方法もあります。

1 皮フや手に接着剤がついた場合

- 水性系接着剤(「ボンド 木工用」など)……水や湯と石ケンでたいていは洗い落とせます。薬用アルコールや石油系溶剤(ベンジン)と水で軽く拭き取り、すぐに石ケンと水でよく洗い落とした後、ハンドクリームを塗っておきます。
- 溶剤系、エポキシ樹脂系接着剤……いずれも硬化前なら溶剤類で拭き取れますが、なるべく溶剤類を使わずに、湯と石ケンを使います。また、皮フが敏感な人やアレルギー体質の人はエポキシ樹脂系接着剤がついた場合、かぶれを起こすことがあるので、使用時は、ゴム手袋かポリエチレン製手袋の着用をおすすめします。
- 瞬間接着剤(シアノアクリレート系接着剤)で誤って指同士が接着してしまった場合……あわてて無理にはがそうとせず、なるべく熱いお湯の中にしばらく浸してもみほぐすか、マニキュアの除光液、アセトンで取ります。また、「ボンド アロンアルファはが

し隊」もあります。接着剤が目に入った場合は、絶対に目をこすったり、溶剤を用いたりせず、水で十分に洗ってから医師の手当てを受けてください。

2 接着するもの以外に接着剤がついた場合

(a) すぐの場合

- 水性系接着剤(「ボンド 木工用」など)……水か湯を浸した布で拭き取ります。
- 溶剤系・エポキシ樹脂系接着剤(「ボンド K10」、「ボンド クイック5」、「ボンド G17Z」(170mlは「G17」)など)……石油系溶剤(ベンジン)か「ボンド Gうすめ液Z」を浸した布で拭き取ります。
- シアノアクリレート系接着剤(ボンド アロンアルファ)……「ボンド アロンアルファ」はがし隊」か、マニキュアの除光液、アセトンに浸した布で拭き取ります。ただし、プラスチックや表面塗装材を侵しますのでご注意ください。

(b) 固まってしまった場合

- 水性系接着剤、セルロース系接着剤(「ボンド 木工用」、「ボンド 工作用K」など)……布についたときは、冷凍室で布ごと冷やし、接着剤がゴワゴワになったらもみ落とします。それでも取れないときは、沸騰水の中にしばらく浸漬させてもみ洗いをします。または石油系溶剤(ベンジン)を浸した布でよく拭き取るか、石油系溶剤(ベンジン)の中に充分浸漬させてブラシをかけます。

「粘着剤はがし液」や「シールはがし液」などで試してみると効果のある場合がありますが、まず、不要な部分で試してからご使用ください。

●溶剤系、エポキシ樹脂系、ゴム系、シアノアクリレート系接着剤

……一般的には、石油系溶剤(ベンジン)、「ボンド Gうすめ液Z」をたっぷりしみ込ませた布で拭き取りますが、布にしみ込んで固まった接着剤は取れにくく、「ボンド アロンアルファ」は取り除けません。石油系溶剤(ベンジン)や「ボンド Gうすめ液Z」で取れないときは、サンドペーパーや砂入り消しゴム、ナイフなどで取ります。エポキシ樹脂系接着剤「ボンド Eセット」は「ボンド Gうすめ液Z」には簡単に溶けないので、衝撃を加えたり、加熱して取ります。

■接着剤の希釈液・除去液一覧

代表的製品名	主成分・溶液形態	希釈液	清掃液(固化・硬化以前)	固化・硬化後の処理法
木工用・CHシリーズ 製本用B 紙工用CF 紙工用SP	酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形、アクリル樹脂系エマルジョン形	水	水	湯 または煮沸水に しばらく浸す
G10Z(170mlは「G10」) G17Z(170mlは「G17」) G103	合成ゴム系溶液形	Gうすめ液Z MEK	MEK ラッカーうすめ液	左に同じ
K10 K17	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	アルコール (メタノール)	アルコール、MEK、 ラッカーうすめ液	左に同じ 特にアルコールを用いる
K120	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	酢酸エチル	酢酸エチル、MEK、 ラッカーうすめ液	左に同じ 特に酢酸エチルを用いる
Eセット クイック5 E200 水中ボンド	エポキシ樹脂系 ペースト状	原則として使用せず	メタノール、アセトン、 ラッカーうすめ液	衝撃を加える または火炎で焼く
ホットメルト型 (熱溶融型接着剤)	エチレン酢酸ビニル共重合 樹脂系、固形	使用せず	加熱溶融	左に同じ
アロンアルファ	シアノアクリレート・ 溶液(モノマー)	使用せず	ボンド アロンアルファ はがし隊、アセトン、 除光液	左に同じ、煮沸(1~2時間) または機械的破壊

※当社製品は原則として原液で使用するようにつくられています。

※手や皮フに接着剤がついた時は健康上の面からなるべく溶剤(うすめ液)を用いない方が望ましく、うすめ液を使った場合は、直ちに石ケン
と水でよく洗い落とし、ハンドクリーム(保護)を塗ってください。接着剤を使用するときは、事前に肌に合う保護クリームを塗り、保護手袋を
着用することをおすすめします。有機溶剤のうち、「酢酸エチル」「MEK」「メタノール」は「毒物及び劇物取締法」に指定されていますので、
取り扱いの際には充分ご注意ください。